

REPORT 01

生成AI × 千葉県オープンデータ 活用事例

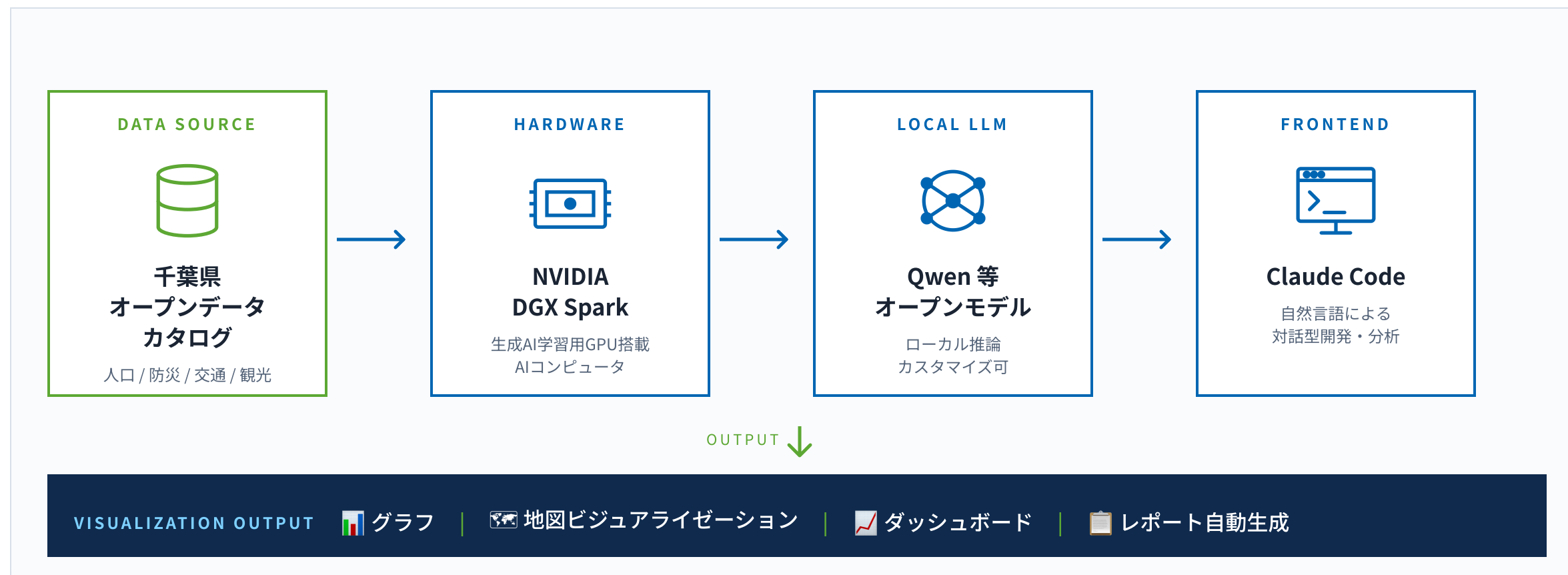
DGX Spark + ローカルLLM + Claude Code による可視化システムの構築



取り組みの目的

千葉県のオープンデータを生成AIで活用し、**教員・学生が簡単にデータの可視化・分析を行える環境**をローカル完結で整備する。

システム構成 ARCHITECTURE OVERVIEW



KEY POINTS

構成のポイント

- 01 ローカル完結のセキュア環境**
全処理がローカルで完結し、機微情報の外部送信なし。低レイテンシ。
- 02 オープンモデル採用**
Qwen 等を採用し、業務要件に応じたカスタマイズ・追加学習が可能。
- 03 自然言語からの可視化生成**
Claude Code により、専門知識なしで対話的にデータ分析・可視化を実現。

REPORT 02

現状の到達点と今後のロードマップ

ローカル実証から学内展開・マルチユーザー環境への発展

✓ CURRENT STATUS

現状(達成済み)

- DGX Spark + ローカルLLM(Qwen等)+ Claude Code による開発・実行環境の構築完了
- 千葉県オープンデータの収集・可視化をローカル環境で実現
- 自然言語による対話的なデータ分析を実証(グラフ生成・集計・地図表示)

! OPEN ISSUES

現状の課題

- 学内ネットワーク環境へのポータリングが未実現
- 現時点では単一マシン上のローカル動作のみ(個人検証レベル)
- 複数ユーザーが同時に利用できる体制が未整備

今後のロードマップ ROADMAP & NEXT STEPS

STEP 01

研修・勉強会での環境紹介・共有

生成系AI入門等の場で本環境をデモンストレーションし、活用イメージを共有。

STEP 02

学内ネットワーク環境への組み込み

閉域ネットワーク上での運用検証。セキュリティ要件を満たす形で学内展開。

STEP 03

マルチユーザー環境への発展

教員・学生が同時に利用できる共有AI基盤として整備し、利用範囲を拡大。

STEP 04

フィードバック反映と機能拡張

学内利用者の声を反映した継続的改善。新規データ・新規ユースケースへ展開。

EXPECTED OUTCOMES

期待される効果

01 リテラシー向上

教員・学生のデータ活用リテラシー向上

02 研究・教育への寄与

研究・教育活動および地域連携への寄与

03 閉域AI活用モデル

安全な閉域環境での生成AI活用モデルの確立